

2017年
5月2日

日仏社会学会ニュース

No. 45
日仏社会学会事務局

<記事>

1. 研究例会について
2. 国際シンポジウム開催について
3. 2017年度日仏社会学会大会について
4. 大会「自由報告」の募集について
5. 『日仏社会学会年報』（第29号）への投稿論文等の募集について
6. 『日仏社会学会年報』バックナンバーの頒布について
7. ホームページ、コラム欄へのご協力をお願い
8. メールアドレス通知をお願い
9. 新入会員の紹介
10. 会費納入をお願い

1. 研究例会について

以下のとおり、日仏社会学会研究例会を開催します。奮ってご参加ください。

日時：2017年7月30日（日）15:00-17:00

場所：日仏会館501会議室（東京都渋谷区恵比寿3-9-25）

報告者：吉本惣一（横浜国立大学）

報告タイトル：「経済学とデュルケームの隔たり」（仮）

コメンテーター：古市太郎（文京学院大学）

司会：江頭大蔵（広島大学）

2. 国際シンポジウム開催について

デュルケーム没後100年という節目に、デュルケーム/デュルケーム学派研究会とともに、国際シンポジウム「社会の境界と社会学の境界—社会学のディシプリン再生はいかにして可能か」《Limites de la société / Frontières de la sociologie : Quels renouvellements pour la discipline sociologique ?》を開催いたします。皆様、奮ってご参加ください。詳細は次のとおりです。

日時：2017年9月18日（月・祝）13：30～18：00

場所：日仏会館ホール（東京都渋谷区恵比寿3-9-25）

講演者：中島道男（奈良女子大学）、イヴ・デロワ（ボルドー政治学院）、
岡崎宏樹（神戸学院大学）、荻野昌弘（関西学院大学）

ディスカンサント：小川伸彦（奈良女子大学）、古市太郎（文京学院大学）

司会：白鳥義彦（神戸大学）、北垣徹（西南学院大学）

主催：科研費研究グループ「社会学のディシプリン再生はいかにして可能か—デュルケーム社会学を事例として—」基盤研究（B）15H03409、日仏社会学会、デュルケーム/デュルケーム学派研究会

共催：（公財）日仏会館、日仏会館フランス事務所

3. 2017年度日仏社会学会大会について

2017年度の日仏社会学会大会は、10月28日（土）、一橋大学国立キャンパス（東京都国立市）において、同大学関係各位のご協力により開催する運びとなりました。

大会シンポジウムのテーマは「マルセル・モースと現代」を予定しています。社会運動やボランティアの現場を見据えた研究者たちが、モースの思想が有する現代的意義について多角的に検討します。大会のスケジュール及びシンポジウムの具体的な内容、報告タイトル等については9月末に発送予定のプログラムでお知らせします。奮ってのご参加をよろしくお願いいたします。

4. 大会「自由報告」の募集について

本年度も、下記要領によって、2017年度日仏社会学会大会の「自由報告」を募集いたしますので、多数ご応募ください。

- 1) 内 容 (1) フランス社会学に関するもの
(2) フランス社会（社会思想史を含む）に関するもの
(3) 日仏社会に関する広義の比較研究
- 2) 報告時間 20分（プラス5分間の質疑応答）
- 3) 申込方法 e-mailで、報告テーマ、氏名、所属を事務局までお知らせください。
e-mail：nichifutsusocio@gmail.com
- 4) 応募締切り 2017年7月28日（必着）

5. 『日仏社会学会年報』（第29号）への投稿論文等の募集について

2018年度発行予定の『日仏社会学会年報』（第29号）への論文等の投稿を、以下の要領で募集いたします。また、会員業績を年報に掲載いたしますので、2017年4月1日から2018年3月31日までの会員業績を、2018年3月31日までに下記のメールアドレスにご送付の程よろしくお願いいたします。さらに、フランスに関連する会員の著書の書評の依頼も随時受け付けています。

- 1) 原稿締切り：2018年3月31日
- 2) 原稿送付先：〒719-1197 岡山県総社市窪木1-1-1 岡山県立大学保健福祉学部
近藤理恵宛（『日仏社会学会年報』編集事務局）
電話：0866-94-2192 e-mail:kondo@fhw.oka-pu.ac.jp
- 3) 投稿規定
 - 1) 本誌に発表する論文等は、(1) フランス社会学に関するもの、(2) フランス社会（社会思想史を含む）に関するもの、(3) 日仏社会に関する広義の比較研究のうち未発表のものに限る
 - 2) 使用言語は日本語、フランス語、または英語のいずれかとする。
 - 3) 論文は 400字詰め原稿用紙換算50枚程度。
(図表等を含め約20,000字。フランス語または英語の場合は約5,000語)
 - 4) 研究ノートは 400字詰め原稿用紙換算30枚以内。
(図表等を含め約12,000字。フランス語または英語の場合は約3,000語)
 - 5) 資料紹介、書評および内外研究動向は 400字詰め原稿用紙換算20枚以内。
(約8,000字。フランス語または英語の場合は約2,000語)
 - 6) 論文、研究ノートには仏文または英文タイトルを付し、論文には 300語以内の仏文または英文の要約、研究ノートには 200語以内の仏文または英文の要約を添付する。
 - 7) 原稿はワープロ原稿とし、打ち出し原稿3部にCD-Rを添えて、簡易書留にて送付のこと。なお、原稿を送付する際に、著者名（英文付記）と所属、著者の連絡先（住所、電話、ファックス、Eメールアドレス）を書いた用紙1枚も送付のこと。
 - 8) 図表については版下作製に別途費用を要する場合には実費負担とする。
 - 9) 引用文献等の記述形式は以下のとおりとする。
 - ・ 本文には注の番号のみを記載し、引用文献、参考文献等は末尾に置く。
 - ・ 著書の場合には、著者名、書名、出版社名、出版年、引用頁を記載する。
 - ・ 論文の場合には、執筆者名、論文名、掲載誌名、巻号、発行機関、発行年、引用頁を記載する。
 - 10) 投稿論文等については、編集委員会が委嘱する審査委員による審査を行い、審査結果に基づいて掲載の可否を決定する。審査委員が指示した論文等の修正が出版期日に間に合わなかった場合、その審査は次年度に継続される。
 - 11) 本誌に掲載された論文等の著作権は、本学会に属するものとする。ただし、著者が後日、自分の論文等を著書等に編集する場合は原則としてこれを認め、著作権料を徴収しないものとする。
 - 12) 本誌に掲載された論文等は原則として電子化し、公開するものとする。

6. 『日仏社会学会年報』バックナンバーの頒布について

年報バックナンバーの電子公開にともないまして、会員のみなさまにバックナンバー（冊子）の頒布を行います。ご希望の方は、事務局（nichifutsusocio@gmail.com）に希望する号と送付先をお知らせください。ただし、号によっては欠本もございますので、予めご容赦ください。

7. ホームページ、コラム欄へのご協力をお願い

本学会ホームページにおきまして、昨年4月より、コラム欄“A la recherche de Durkheim perdu”を開設し、月2回のペースで更新しております。会員持ち回りで連載しており、それぞれのフランスでの経験や日頃の研究活動からの知見が興味深く綴られております。みなさまには、寄稿にご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

8. メールアドレス通知をお願い

会員のみなさまには、本学会の活動に様々なかたちで関わっていただきたいと考えております。年次大会や学会誌の折にはご協力のほどよろしくお願いいたします。そこで事務局や編集事務局、研究活動委員会から会員のみなさまにご依頼をさせていただく際に、迅速にご連絡ができますようにメールアドレスの通知をお願いしたいと存じます。

事務局 nichifutsusocio@gmail.com 宛にお名前とメールアドレスをご通知ください。なお、ご教示賜った電子メールアドレスの管理には十分注意いたします。

9. 新入会員の紹介（入会順）

吉本惣一（横浜国立大学）、古市太郎（文京学院大学）、野々村元希（同志社大学大学院）

10. 会費納入をお願い

2017年度もお早めに会費を納入くださいますようお願いいたします。2014、2015、2016年度会費未納の方は、これも併せて納入ください。2016年度の会費を納入されていない場合、年報27号が発送されません。納入が確認できしだい、発送させていただきます。会費は5,000円（院生会員は3,000円）です。なお、院生会員の方は、同封の振替用紙の通信欄に、所属大学院を記載してください。

日仏社会学会事務局

〒662-0891 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

関西学院大学社会学部内

TEL/FAX 0798-54-6953

nichifutsusocio@gmail.com

郵便振替口座 00960-6-278804 口座名 日仏社会学会
